

〔記入注意〕 この実務経歴書は勤務先（自営業を含む）毎に作成し、今までの建築に関する実務の経歴について登録に必要な業務内容を年代順に記入してください。なお、記載内容の記入不備や疑義が生じた場合、再提出や追加書類の提出を求めることになり、登録が遅れる場合があります。また、虚偽の実務経歴を記載した場合、建築士法上の措置や登録が認められない場合もあります。

私は、一級建築士の免許を受けたいので、建築実務の経歴を下記の通り記載し、併せて第三者が当該書類の内容が事実と相違ないことを確認したことを証する実務経歴証明書を提出します。  
私は、下記事項が真実で、かつ正確であることを誓います。

令和〇〇年 〇〇月 〇〇日

国土交通大臣 殿  
中央指定登録機関  
公益社団法人日本建築士会連合会

氏名 建築 士郎

勤務先等						
勤務先(部課名まで)	所在地(番地まで)	在職期間の合計				
		年月～年月		年月数		
〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地	R2年 4月～ R4年 3月		2年 0月		
在職期間		地位職名	建築実務の内容(建築士法施行規則第一条の二)			
年月～年月	年月数					
R2年4月～R4年3月	2年 0月	学生	大学院の課程におけるインターンシップ			
年 月～ 年 月	年 月					
年 月～ 年 月	年 月					
建築実務の詳細(直近の実務から新しい順に記入)				建築実務経験期間の合計		
				2年 0月		
(1)	対象物件の名称等	対象物件の所在地		建築実務経験期間		
				年月～年月	建築実務の割合	年月数
	インターンシップ及びインターンシップ関連科目の修得	—		R2年 4月～R4年 3月	100%	2年 0月
実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)						
〔 13C-01 〕 〇〇建築設計事務所における建築設計に関するインターンシップを行い、インターンシップ及びインターンシップ関連科目の修得により大学院が定める所定の単位数32単位を取得。 建築士試験の大学院における実務経験に係る修得単位証明書(別紙)を提出。						
(2)	対象物件の名称等	対象物件の所在地		建築実務経験期間		
				年月～年月	建築実務の割合	年月数
				年 月～ 年 月	%	年 月
実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)						
〔 〕						
(3)	対象物件の名称等	対象物件の所在地		建築実務経験期間		
				年月～年月	建築実務の割合	年月数
				年 月～ 年 月	%	年 月
実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)						
〔 〕						

(4)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
〔 〕					
(5)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
〔 〕					
(6)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
〔 〕					
(7)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
〔 〕					
(8)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
〔 〕					
※經由庁(機関)記載欄		※登録機関記載欄			